



特集

住んで良かった町へ ~オールインワンのまちづくり~

明和町 都市建設課

明和町は、国道122号線や東北自動車道、東武伊勢崎線など交通インフラが整った群馬県内でも東京に近い町です。優れた交通条件を生かして工業団地を整備し、多くの企業が進出しています。

2023年4月に大型商業施設がオープンし、町の新しいランドマークは多くのメディアに取り上げられ、町の知名度が向上しました。このことにより、単なる地元愛や郷土愛といったことだけでなく、自らの地域をより良くするため積極的にかかわる「シビックプライド」が芽生えはじめました。

しかし数年前の明和町は入院できる病院もなく、町の保健センターの老朽化も進み、健診会場は役場庁舎で行うなど保健医療環境の整備が課題となっていました。また多くの企業が町へ進出し、昼間人口が多いことから駅利用者による関係人口増を図るねらいもあり、地域経済発展のため駅周辺の整備を行う必要がありました。

そして東武伊勢崎線川俣駅の橋上化から始まった「コンパクトシティ構想」。同構想は、生活に必要な施設を集約し利便性と効率性を高めるまちづくり施策で、2019年から事業を進めていきました。事業を進めるにあたり、スピード感を加速するため、株式会社邑楽館林まちづくりを設立いたしました。

保健医療環境の課題については、駅前に保健医療複合施設の建設を計画し、事業の実施にあたっては、民間資金を活用するスキームとし、事業主体を株式会社邑楽館林まちづくりが行うことで、民間資金を活用して町の財政負担を抑制した資金計画としました。2021年、川俣駅ペDESTリアンデッキ開通とともに、医療機関と保健センターの複合施設「明和メディカルセンタービルA館・B館」が完成。また、駅周辺の賑わいの創出と企業活動支援のため、駅前に温泉を掘削しホテル誘致に取り組むとともに、さらなる地域医療保健機能の充実を図るため婦人科、整形外科、皮膚科、健診棟を含めたメディカルセンタービルC館の建設を計画。そして2025年9月にホテルがグランドオープンし、メディカルセンタービル



ペDESTリアンデッキで各施設をつなぐ

C館が開業いたしました。川俣駅を中心としたこの事業は、駅とホテル、病院をペDESTリアンデッキでつなぎ、利便性だけでなく、大規模災害時対応の避難所としての機能も持っています。

駅前開発は交通結節点としての利便性向上だけでなく、経済的波及効果、防災対策、そして地域アイデンティティの形成という多面的な価値を持ち合わせています。これからも明和町はこの資源を効率的に活用し、持続可能なまちを形成するための中核的施策事業を行っていきます。



明和メディカルセンタービルC館

